

法人本部事業方針（案）

平成28年度より、新たな基本理念、方針、行動指針をもって業務にあたった。利用者を中心とした考えを常に頭に思い描きながら、職員は業務を遂行してきた。一方では、経営状況の改善も重要な要素の一つであった。職員配置や員数、勤務時間の調整も柔軟に取り込んできたが、一定の経営改善につながった反面、利用者支援や就労収入の充実にはつながらなかったように感じる。

平成29年度は、経営上は人件費率のアップや収支バランスを崩してしまう可能性もあるなど、単年度で見れば問題点もあるが、必要なところに必要な職員を配置または増員し、将来のつくしの里へ投資をする形をとった。これにより、業務のバランスを整え、課題となったことについて対応、改善していきたい。あわせて、収支のバランスを少しでもとれるよう、つくしの里の事業所利用を求めている方の確保に努めたい。

社会福祉法の改正により役員体制も変わることから、関係する方々と共に一丸となって業務に当たっていききたい。

法人理念

一人ひとりとのかかわり合いを大切に

誰もが暮らしやすい地域づくりを共に

基本方針

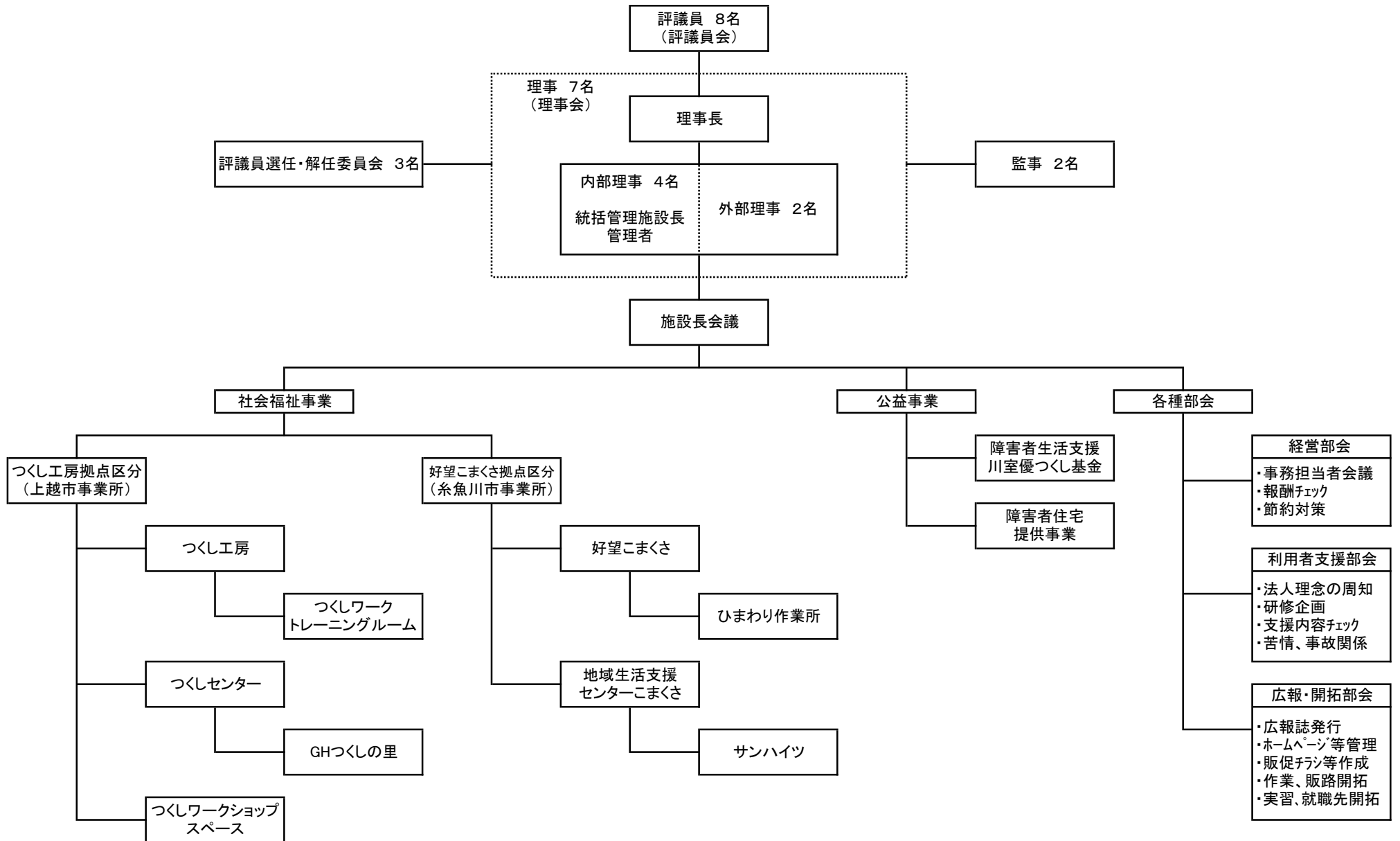
- かけがえのない個人として尊重し、その人らしい自立生活、自己実現を支援します。
- 人や文化の多様性を認め合い、その個性と力を活かした支援を行います。
- 社会福祉法人としての責任を果たすため、共に地域社会の向上に取り組みます。

職員行動指針

「私たちは・・・」

- その人のあるがままを受けとめます。
- その人の想いを傾聴、受容し信頼関係を築きます。
- 自己選択・自己決定・自己責任の力に働きかけ支援します。
- その人らしい自立生活の実現に向け、その人や環境のストレングス（強さ）に着目して支援します。
- 地域の一員として社会参加し、当たり前前の生活が送れるよう支援します。
- 関係機関、地域住民と積極的に協力、協働し、地域福祉の向上に取り組みます。
- 社会的役割や使命を自覚し、自己研鑽を重ね、より質の高いサービスを提供します。
- 個人情報保護法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法等の法令や倫理を遵守し業務を遂行します。

(福)上越つくしの里医療福祉協会 組織図(案)



(法人 事業方針 追加資料)

利用者支援部会

利用者支援部会において、つくしの里法人理念、基本方針、職員行動指針を基に、質の高い利用者支援と事業運営をするために、職員一人ひとり、法人全体で資質を高めるような研修企画をして行きたい。

また、平成24年から障害者虐待防止法が施行され、つくしの里においては、28年度に虐待防止委員会を組織したが、まだ内容において課題があるため今年度も引き続き取り組み、組織の在り方を検討していきたい。

<重点取り組み事項>

1. 新任者研修及び非常勤職員への基礎研修を実施する。
(各施設の概要・法人理念と基本方針・障がい者支援・雇用関係等)
2. 法人内研修により職員の資質向上を図る(8月、3月)。
3. 虐待防止委員会組織及び通報・報告書の見直しと、今後の組織の在り方を検討していく。

広報・開拓部会

平成28年度は、PR活動としてフェイスブックを導入した。ひまわり活動、主催イベント、機関誌、製品紹介を各事業所で更新している。掲載する写真については、統一した承諾書にて了解をいただき、個人情報の保護に十分配慮する。平成29年度は、ホームページのリニューアルの検討を実施し、法人としてめざしていることを明確に示せるようにしていきたい。

各事業所のパンフレットは、法人として統一された見やすいものを作成中である。

これらPR媒体により、作業・販路・実習先・就労先の開拓、利用者確保について積極的に取り組んでいきたい。

<重点取り組み事項>

1. 広報活動の重要性を学ぶ機会を作り、まず部会員から意識を高める。
2. フェイスブックの更新回数や頻度の目標値を具体的に決め、より多くの情報を発信する。
3. ホームページリニューアルに向け、掲載すべき事項の洗い出しを行っていく。

経営部会

事業所利用を希望される利用者の確保や、計画相談における給付費の増収は、法人全体の継続的な課題である。

一方で職員の業務内容は多岐にわたり、モチベーションの維持も課題になってきている。その中で、職員が業務にやりがいを感じ、経験や能力に応じて保障される仕組みを整備し、職員のキャリアアップの仕組みについて協議したい。

また、相談支援事業所における業務効率化を図りたい。

<重点取り組み事項>

1. 処遇改善加算(I)を算定するためのキャリアパス要件を整備する。
2. 資格手当等の創出を検討する。
3. 限られた人数で増え続ける相談業務を効率よく取り組み、正確・安全な情報管理を行うため、相談支援事業システム導入を検討する。

平成29年度つくし工房（就労移行支援・就労継続支援B型）事業方針（案）

就労移行支援

就労移行支援は定員15名のところ14名が在籍し、就職をめざしトレーニングに取り組んでいる。28年度は5名が就職し、職場定着のための支援を関係機関と協力し継続している。当事業所で主たる対象者としている精神障がい者では、厚生労働省が公表しているハローワークにおける就職件数において、全障がい種別の4割以上を占めるようになってきている（H27年度）。一方で早期離職も課題となっている。障がい者の職場定着支援には就職してからの本人、企業への支援もさることながら、それ以前の事業所でのトレーニングの中で、就職や働き続けるための技能、心得を十分に体得していく必要がある。また、社会全体での障がい者雇用情勢や上越地域の就労支援ニーズの変化にも柔軟に対応し、その状況や利用者の障がい特性に合わせた就労支援プログラムの提供が必要である。より就職率、就労定着率を高められるよう適切な支援、サービス提供を行っていききたい。

<重点取り組み事項>

1. 個別支援計画による個別課題への取り組み、グループ活動等による就労意欲を高める取り組み、訓練環境をより企業環境に近づける取り組み等により、就職率、就労定着率の向上を図る。
2. 就職への具体的なイメージを作り、個別課題の抽出を行うため、障害者就業・生活支援センターやハローワークと連携し、職場実習を積極的に取り入れる。
3. 外部研修の参加や法人内研修を実施することにより職員の資質向上を図る。

就労継続支援B型

就労継続支援B型は定員24名のところ35名が在籍している。平均利用率は94%を超えているが、28年度後半は体調不良や入院等の療養のため利用中断者が増えた。60歳を超える高齢利用者も増えていることから、健康に留意した支援を行っていききたい。

29年度には「和・道」医療福祉グループやひまわり合同会社と連携した、ひまわり畑の委託作業や、ヤギの飼育委託が計画され、今後、作業量や作業収入の増加を見込める。多様な作業や活動を行うことで、当事業所での就労訓練を希望する、より多くの障がい者を受け入れ、就労に関する本人や地域の期待やニーズを応えていききたい。

また、利用者の自立生活を支援するためには、就労の成果としての工賃を増額し、生活費の充足を図っていく必要がある。より高い工賃をめざすことにより就労意欲を高め、事業所内での活動の充実と、一般就労へのステップアップをめざしたい。そのために既存の製品を見直すとともに、新製品の開発、製品を売るためのキャンペーンを行い、増収増益を図りたい。

<重点取り組み事項>

1. ひまわり畑、ヤギ飼育等の作業を請け負い、就労機会や作業種目の増加を図る。
2. 障がい者の自立のため、工賃を上げるための販促活動や施設外就労により授産製品の増収を図る。
3. 外部研修の参加や法人内研修を実施することにより職員の資質向上を図る。

平成29年度サービス内容について（案）

事業所名	定員	作業内容
就労移行支援 主たる事業所 (つくし工房)	6名	①製菓作業 ②珈琲焙煎 ③リサイクル作業 (缶・ペットボトル分別、機械解体)
就労移行支援 従たる事業所 (つくしワークトレーニングルーム)	9名	①製パン・製菓作業 ②清掃作業（上越市福祉交流プラザ等） ③受託作業（上越市指定ゴミ袋詰め） ④飲食店作業（つくしんぼ）
就労継続支援 B 型 (つくし工房)	24名	①パン作業 ②受託作業（オムツ・ダンボール） ③ひまわり畑作業

平成29年度つくし工房事業計画（案）

月	健康管理・防災対策	行 事		職員研修	精神保健福祉啓 発活動等
		就労移行支援	就労継続支援		
毎月	体重測定、健康教室 利用者・職員合同ミー ティング	ハッピー♡プロ ジェクト		職員会議 外部研修への 参加	事業所やイベン トでの販売 自立支援協議会 その他関係機関 との連絡会議
4	胸部間接撮影	お花見			みどりのフェスタ 健康福祉花見会
5					
6	避難訓練		日帰り温泉		ひまわり植栽 ふくしのひろば
7					
8	大掃除	ジョブガイダンス (就労準備学習)		法人内研修	納涼会 越後ひまわり祭
9		ジョブガイダンス 合同面接会	ぶどう狩り		福祉交流プラザ ふれあいフェスタ
10		1泊研修旅行			はさ木フェスタ
11	避難訓練、予防接種				
12	大掃除	チャリティーつくしツリーオープン式 忘年会			
1					
2		合同面接会	日帰りレク		エルマール販売
3				法人内研修	パレット祭 エルマール販売

平成29年度 つくしワークショップスペース

自立訓練（生活訓練）・就労継続支援A型・就労継続支援B型事業計画（案）

自立訓練（生活訓練）

自立訓練（生活訓練）は、引きこもりや体調不安定な方の数少ない受け入れ先として相談支援事業所、市福祉課等に認知されている。現在は定員5名のところ13名が在籍し利用率は100%を超えているが、2年間の利用期限があり退所予定が2～3名あるため、新規利用者受け入れを進めていきたい。昨年度より、工賃を還元できる作業訓練プログラム（プレ就労）を実施し、就労意欲を持っていただけるよう取り組んでいる。利用者の年代は10～50代と幅広く、障がいも生活課題も異なるため、しっかりとアセスメントし個別の課題に対応したプログラムを提供し、家族や関係機関とよく連携しながら支援していきたい。

<重点取り組み事項>

1. 利用者が意欲を持って取り組めるように、作業訓練や個別プログラムを提供する。
2. 利用者が主体的に活動できるよう、個別ニーズに基づいた支援計画を作り適切な支援を行う。
3. 本人主体のサービス利用計画および施設個別支援計画が作成できるよう、職員の資質向上のための研修を実施する。

就労継続支援A型

就労継続支援A型は、昨年10月、高齢者給食作業を弁当作業に移行した。年中無休ではなくなり、職員体制も利用者受け入れ体制も整ってきたところで、29年度は弁当作業の収入を伸ばし最低賃金を支払えるようにしていきたい。現在登録者は16名で、年代は20～60代と幅広いが、20～30代が8名と半数を占め、ここをステップに一般就労をめざす方も多い。就労支援もしつつ、新たな利用者確保も進めていきたい。50～60代では健康面に課題のある方もおられるため、日々の体調をよく観察し、関係機関と連携しながら個別のニーズに合う支援をしていきたい。

<重点取り組み事項>

1. 安定した作業量を確保するために、弁当収入を伸ばすよう努める。
2. 利用者が主体的に活動できるよう、個別ニーズに基づいた支援計画を作り適切な支援を行う。
3. 本人主体のサービス利用計画および施設個別支援計画が作成できるよう、職員の資質向上のための研修を実施する。

就労継続支援B型

就労継続支援B型は昨年10月開設し、事業所内で使用する白衣のクリーニング作業と衣類を分解する作業の委託を受けて活動している。定員5名で新規利用者は4名あり、年代は20～40代と若いですが、毎日通所できる方が少ないため新たな利用者確保を進めていきたい。つくし工房よりは作業時間が短く体力的にハードではないので、自信のない方や就労意欲はあっても体調不安定な方を受け入れている。日々の体調をよく観察し、関係機関と連携しながら支援をしていきたい。

<重点取り組み事項>

1. 地域で安定して生活できるよう、健康面に留意し支援を行う。
2. 利用者が主体的に活動できるよう、個別ニーズに基づいた支援計画を作り適切な支援を行う。
3. 本人主体のサービス利用計画および施設個別支援計画が作成できるよう、職員の資質向上のための研修を実施する。

平成29年度サービス内容について（案）

事業名	定員	活動・作業内容
自立訓練（生活訓練）	5名	①生活力を高めるトレーニング （グループ活動、個別活動） ②作業訓練プログラム ③余暇活動
就労継続支援A型	10名	①弁当作業 ②高齢者サービス清掃、洗濯作業 ③つくしショップ運営
就労継続支援B型	5名	①クリーニング ②衣類の分解作業 ③点字名刺加工

平成29年度つくしワークショップスペース事業計画（案）

月	健康管理・防災対策	行事		職員研修	精神保健福祉啓発活動等
		自立訓練	就労継続A・B型		
毎月	体重測定、利用者・職員 合同ミーティング	グループ活動（SST、スポーツ等） ケア会議		職員会議 外部研修参加	関係機関との連絡会議 ホームページ運用
4	胸部間接撮影	お花見			健康福祉花見会
5		日帰り旅行			
6	避難訓練				ふくしのひろば
7		民謡流し			
8	大掃除	納涼会		法人内研修	
9		敬老会	合同面接会		ふれあいフェスタ
10		1泊研修旅行			はさ木フェスタ
11	避難訓練、予防接種	日帰り旅行			
12	大掃除	クリスマスパーティー、忘年会			チャリティーつくしツアー
1		新年会			
2		日帰りレク	合同面接会		
3				法人内研修	

平成29年度 つくしセンター事業方針（案）
（特定相談支援・障害児相談支援・一般相談支援・地域活動支援センターI型）

平成29年度つくしセンターの各事業の事業方針は以下の通りである。

特定相談支援、障害児相談支援においては、利用者や家族、それぞれのストレングス、環境に配慮しながらサービス利用計画を作成し、その人らしく地域で安心して暮らせるよう支援に取り組むたい。

一般相談支援においては、施設や病院から地域に移行する時の支援であり、つくしセンターは、精神科病院入院中の方の支援になってくる。退院する方の不安や期待に共感し、寄り添いながら病院・家族・地域と連携し、スムーズに地域生活に移行できるよう支援に取り組むたい。

その他、関わる相談支援の利用者において、3点について意識して取り組むたい。

- 1) 年齢が65歳に達する利用者においては、適切な段階から各関係機関と連携し、安心して介護保険サービスに移行できるよう取り組むたい。また、福祉の縦割りを排するため、「地域共生社会」の導入に向けて、国は福祉相談の窓口一元化を打ち出した。上越市は平成30年に向けて窓口一元化のため準備室を開設する予定であり、今後その動向に注視していきたい。
- 2) 困難ケースの対応について、行政や基幹相談支援センターに関わって頂くことで、多面的な角度からのアドバイスや課題解決と一緒に取り組んでもらえる安心感が得られることから、一事業所だけで抱え込まず、積極的に発信していきたい。
- 3) 福祉サービス利用をする方の支援が全面に出ているが、地域にはサービスに繋がらない精神障がい者も多い、定期のサービスまで必要ないが、見守りをするすることで、地域で安定した生活ができるよう従来の相談対応も重視し取り組んでいきたい。

地域活動支援センターにおいては、現在の活動を継続し、利用者の方が楽しく安全に参加できるよう活動の企画や気軽に立ち寄れる場所、仲間同士の交流の場や、喫茶活動を通し地域の皆さんも立ち寄れる場所を提供し、障がい者理解を深めていきたい。

<重点取り組み事項>

1. 計画相談支援の適正な管理を行い、モニタリングの実施と、利用者の状況把握と支援に努め給付費を得る。
2. 地域活動支援センター登録者において、安定した地域生活が送れるよう、定期的に連絡および訪問活動し、必要時に速やかに支援体制ができるよう状況把握に努める。
3. 活動において利用者が主体となり楽しめる活動を計画する。
4. つくしんぼ音楽会、チャリティつくしツリーを開催し障がい者理解と地域貢献を図る。
5. 外部研修への参加や法人内研修を実施し職員の資質向上を図る。

平成29年度 つくしセンター事業計画（案）

月	相談支援事業	地域活動支援センター事業	
		生活支援・生活サポート	地域交流・啓発活動
毎月 (または定例)	【相談支援事業】 ・特定相談支援事業 ・障害児相談支援事業 (計画作成) (モニタリング) ・一般相談支援事業 (地域移行支援) (地域定着支援) ・基本相談(面接・電話・訪問) 【その他】 ・上越市自立支援協議会の参加 ケアマネ連絡会 ・相談支援専門員研修	・日常生活支援(食事・憩い・健康管理・移動・パソコン) ・グループ活動 (外食・喫茶・軽作業等) ・アウトリーチ活動 (稲田G・南新町G) ・妙高市支援(バンブーサロン) ・発達障害者当事者サロン事務局 ・ピアサポート講座の運営参画	・情報提供(つくしセンターニュース・ホームページ・Facebook) ・喫茶つくしんぼ運営 ・スタッフミーティング ・ふくしのひろば実行委員会 ・精神保健福祉協会実務担当者会議への参画
4		花見・胸部間接撮影	
5		外食サークル	
6			ふくしのひろば
7		納涼会	精神保健福祉協会県大会
8		一泊旅行	防災訓練 法人研修
9		バタバタまつり(糸魚川) 外食サークル	つくしんぼ音楽会
10		日帰り旅行	はさ木フェスタ
11		インフルエンザ予防接種	防災訓練
12		忘年会 大掃除	チャリティつくしツリー クリスマスパーティー
1		外食サークル	
2		調理実習 歯科検診	
3		日帰り温泉	法人研修

平成29年度 グループホームつくしの里事業方針（案）
 共同生活援助（介護サービス包括型）

平成29年度のグループホームつくしの里は、現在入居者数6名、生活全般に安定しており引き続き現状の生活が継続できるよう支援をしていきたい。

安定した生活を送るために、今年度も健康面に重点を置き、市民健康診査を受け自身で健康状態を把握していただくことで、生活習慣病の予防や規則正しい生活への意識を高めていただきたい。活動面においては個々に合った日中活動や福祉サービスを取り入れ、活気のある日常生活を送っていただきたいと考える。

また、入居者の中で、単身生活の希望者もいる、生活力を確認しながら地域移行にチャレンジしていただけるようサポート体制を整えていきたい。

グループホームは生活の場であり、求められる支援内容が多岐にわたることから、関係機関との連携を図り、また災害が多発する昨今においては、災害対策を確実にを行い、安心・安全な生活環境を提供しながら事業運営をしていかなければならない。

<重点取り組み事項>

1. 市民健康診査を受け身体状況の把握に努める。
2. 福祉サービスや地域の資源を利用しながら利用者の地域生活を支援する。
3. 家族との連携調整を深めるため、利用者、家族参加のケア会議を開催する。
4. 町内の共同作業や行事へ参加する。
5. 町内防災訓練及び住居単独の防災訓練の実施、災害マニュアルの見直しを実施する。

平成29年度 グループホームつくしの里事業計画（案）

月	提供するサービス内容	その他
毎月	利用者と共同で行う調理・洗濯および掃除等の家事、健康管理、金銭管理相談および助言、その他日常生活上の支援、家族・関係機関との連携調整	町内行事等への参加 ケア会議の開催 スタッフミーティング 誕生会・ホームページの運用
4	非常持ち出し袋点検	
5	市民健康診査結果指導	上越グループホーム連絡会 子安町内クリーン活動
7		法人研修 自主防災訓練 子安町内クリーン活動
8		子安町内納涼会
10		はさ木フェスタ
11	インフルエンザ予防接種	上越グループホーム連絡会（研修） 自主防災訓練 町内防災訓練
12	クリスマスパーティー	
1	市民健康診査	
3		法人研修

平成 29 年度 好望こまくさ（就労移行支援・就労継続支援 B 型）事業方針（案）

就労移行支援

就労移行支援は、定員 6 名のところ 7 名が在籍されている。近々に 2 年が満了となる利用者は、一般企業で実習されている。平成 28 年度は残念ながら就職に至らなかったが、平成 27 年度に就職された方の離職はない。就職後の定着支援をしっかりと行い、離職者のないようにしていきたい。就職された方が、日々どのような事に注意を払いながら仕事をしているのか、困った時の対処方法などの体験を実際に聞くことができる時間を作りたい。トレーニングによって自分もできるようになる、やっていけるようになるなど、意識の持ち方を変えていただけるよう働きかけたい。就労の環境に、より近い実習場所の開拓に力を入れたい。地域のイベントに参加し、「ふくふく」で作ったお菓子を販売しているが、実習はそれ以上に大切なことであり、還元金に左右されることなく、目標である就職をめざしていきたい。ハローワーク、障害者就業・生活支援センターさくらと連携しながら進めていきたい。糸魚川公民館の行事、市民の会（2 グループ）と一緒に活動をしており、事業を理解していただける場となっている。

<重点取り組み事項>

1. 多くの実習を経験し、その中での課題を確認、修正する作業を丁寧にする。
2. 毎日の生産活動に流され目的を忘れないように、個々の支援計画の目標に沿って支援する。
3. 社会に出る準備、心構えを持てるよう、自ら動く積極的な力を引き出す。

就労継続支援 B 型

就労継続支援 B 型では、定員 30 名のところ 42 名が在籍する（好望 30 名、ひまわり 12 名）。単発の作業依頼はお受けして、少しでも工賃アップにつなげたい。予定表、作業手順書、モデリングを取り入れ、作業をわかりやすくし、誰でもができる作業にしていきたい。日々の健康管理に十分気を配り、安心して過ごせる環境を整えたい。感染症対策を良く理解していただくため、保健師と連携して指導をしていく。多様化している障がい特性を理解し、利用者にあった支援をするとともに、アセスメントから個々の生活の質が向上するようにしていきたい。地域に貢献する気持ちを大切に、社会の一員である自覚を促し、環境美化など自分たちに出来ることを考え取り組んでいきたい。

<重点取り組み事項>

1. 利用者の健康管理に留意し、地域で安定した生活を送れるよう支援する。
2. 工賃額のアップをめざし、新規作業の開拓をするとともに、作業依頼はお受けする。
3. 個々の目標が達成できるよう柔軟に対応し、力のある方は就職へ向けた活動を促す。

働く喜びや、必要とされていることを実感できる事業所であるように、職員が協力して支援にあたりたい。より良いサービスの提供、障がい特性への理解を深めるため、職員の研修は積極的に参加したい。事業の内容を多くの方に知っていただき、障がいへの理解に繋がるように活動したい。

平成29年度サービス内容について（案）

事業所名	定員	作業内容
就労移行支援 (好望こまくさ)	6名	① ふくふくの運営（菓子製造・販売） ② ポスティング作業
就労継続支援B型 主たる事業所 (好望こまくさ)	20名	① 受託作業（サブ線、コア詰め、靴のパネ、傘） ② オリジナル製品製作販売 ③ 清掃作業、管理業務 （こころのケアセンター、保健センター、診療所他） ④ 弁当こまめしの運営（製造・配達）
就労継続支援B型 従たる事業所 (ひまわり作業所)	10名	① 受託作業（ゴム栓詰め、コア詰め、種入れ） ② オリジナル製品製作販売 ③ 清掃作業（青海総合福祉会館）

平成29年度 好望こまくさ事業計画（案）

	健康管理・防災対策	行事他活動		職員研修	精神保健福祉啓発等	
		就労移行支援	就労継続支援			
毎月又は定例	防災用機器自主点検 健康観察票記録	ケア会議 メンバーミーティング、還元金ミーティング 誕生会 ウォーキング活動	就労勉強会 ハローワーク 実習	パン販売 グループワーク	管理者会議 経営会議 事務担当者 会議 利用者支援 部会 ミーティング 外部研修	自立支援協議会 運営委員会 就労支援部会 相談支援会議 上越圏域就労担当者会議 地域精神保健福祉担当者会議 地域行事、イベント出店販売 ホームページの運用
4	交通安全講話、検便	合同お花見レク				
5		ゴミ拾いボラ			中学生貢献活動受け入れ	
6	防災訓練、健康出前講座	旅行			花いっぱい運動	
7	消防機器点検	運動レク			琴平祭り販売	
8	大掃除 分場避難訓練	ぶどう狩り		法人内研修	福祉のつどい販売 バリアフリー講座	
9		合同面接会			バカハマ祭り、ささゆり祭り	
10	防災訓練	ゴミ拾いボラ			はさ木フェスタ 他2件	
11	予防接種				みずほ祭	
12	大掃除	茶話会、レク			花いっぱい運動	
1		新年会				
2	消防機器点検	ジョブガイダンス 合同面接会				
3		カラオケ大会		法人内研修	白嶺高校交流会	

平成29年度 地域生活支援センターこまくさ事業方針（案）

（一般的相談支援、特定相談支援、一般相談支援、障害児相談支援、地域活動支援センターI型）

相談支援については、障害福祉サービス利用の方へ計画相談が浸透し、相談員が抱えるケース数が多くなった。ケースに追われている実情があり、今後の継続性、質を担保する意味でも今後の体制づくりについて検討する年度にしたい。

当センターは市の地域生活支援事業で実施される一般的相談支援（委託相談）、個別給付で提供される指定特定相談支援（計画相談）、指定一般相談支援（地域定着・地域移行）、障害児相談支援、そして地域の中で基幹相談支援センター的な役割も担ってきた。今一度、それぞれの機能を明確にし、今後求められる機能も含めて適切な人員配置、他機関との役割分担等について検討したい。

相談ケースを通じて見える地域課題についても、各相談員が市自立支援協議会へ参画する中で、現状を整理し、問題提起し、活発な意見交換がなされるための役割を担いたい。

地域活動支援センター（以下、地活）においては、昨年度から登録者の整理を行う中で、改めて当地域で求められる地活の在り方について検討したい。また諸活動を通じて当事者の力を実感し、引き出し、集約することでできる活動を模索したい。

障がい者福祉の啓発・地域住民との交流活動の「こころのバリアフリー講座」「バタバタまつり」「精神保健福祉フォーラム」については、事業目的を地域・関係機関と共有し、ひとつのテーマについて体系化した内容を展開したい。

スタッフ一人ひとりの目標、意欲を把握し、定期的な拠点内研修会を開催することで、資質向上に努めたい。

<重点取り組み事項>

1. 相談支援の機能について整理を行い、当事業所の役割と他機関との連携について検討する
2. 計画相談支援の適正な管理を行い、定期的なモニタリングと事前・予防的な関わりを行う
3. 地活登録者の整理と共に、地活へのニーズ調査を行い、中長期的な地活の在り方について検討する
4. 興味関心を抱き、多くの方にご参加いただけるような地域住民交流活動や啓発活動、ターゲットを意識した福祉教育等の企画を行う
5. 相談支援技術や日頃の関わりの方の質の向上のため、事業所内勉強会や外部研修等への参加を通じスタッフの資質向上に努める

平成29年度 地域生活支援センターこまくさ事業計画（案）

月	相談支援	地域活動支援センター	
		生活支援・生活サポート	地域交流・啓発活動、他
毎月 (または定例)	【相談支援事業】 ・ 一般的相談支援 ・ 特定相談支援（計画作成・モニタリング） ・ 一般相談支援（地域移行支援・地域定着支援） ・ 障害児相談支援（通所支援・モニタリング） ・ 基幹相談支援センター的機能 ・ 障害支援区分認定調査 【その他】 ・ 相談員連絡会 ・ 相談支援会議の事務局 ・ 居住部会、就労支援部会 ・ 市自立支援協議会運営会議 ・ 市自立支援協議会全体会 ・ 糸魚川市成年後見制度検討委員会	・ 日常生活支援（食事・憩い・就労・清潔保持・移動等） ・ ひろばの活動（利用者の興味関心に働きかける活動、安らげる時間、つながりを持てる時間） ・ リラックリCLUB（月1回のレクリエーション活動） ・ 発達障がい者サロン運営	・ 情報提供（バタバタ新聞・ホームページ・Facebook） ・ こころのバリアフリー講座主催 ・ バタバタまつり事務局 ・ 精神保健福祉フォーラムへの参画 ・ 糸魚川市家族会事務局 ・ スタッフミーティング
4		お花見	
5		調理実習	糸魚川中学校貢献活動受け入れ
6		ふくしのひろば	防災訓練
7		ボーリング&外食	こころのバリアフリー講座 精神保健福祉協会上越支部総会
8		越後ひまわり祭り	法人職員研修会
9	実習生受け入れ	つくしんぼ音楽会	バタバタまつり
10		歯科検診・はさ木フェスタ	精神保健福祉フォーラム
11		インフルエンザ予防接種 みずほ祭	防災訓練
12		クリスマス会・忘年会 チャリティつくしツリー	チャリティつくしツリー
1		新年会	
2	支援者研修会	日帰り旅行	
3		ショッピング&外食	法人職員研修会

平成29年度 サンハイツ事業方針（案）
（外部サービス利用型共同生活援助）

平成28年度においては、精神症状が悪化し、入院期間が長引き、退所された入居者が2名いた。改めて入居者それぞれのご意向、ストレングス、諸症状、生活課題等を正確に把握し、安心、安定してグループホームで生活できるよう、サービス等利用計画と個別支援計画に基づいた支援の統一、担当相談員・サビ管・世話人・入居者本人の役割の確認、そして中長期的な支援の方向性を入居者本人、ご家族、医療機関、支援関係者と共有していきたい。

現在の居室や共有スペースが少しでも快適で、こころ穏やかに過ごせることができるように、入居されている方同志の交流と環境整備にも取り組んでいきたい。

サンハイツは市の高齢者共同住宅と兼用で、管理体制も当法人の他、高齢者の処遇については市の高齢係、食事提供と日常的な生活支援は市社会福祉協議会という3重構造となっている。高齢者との交流が持てたり効率的というメリットがある反面、高齢者や社協スタッフの言動により住居内の人間関係や感情が揺れ動きやすく、それが原因で精神症状に繋がったことがあった。3機関同士の連携を強化し、問題発生時の対応の協議やスタッフを対象とした勉強会などを開催していきたい。

また、緊急時の入居者やスタッフの対応について、避難訓練や市総合防災訓練等にも参加し、様々な想定で動線や備えの確認をし、地域との連携体制を模索したい。防犯対策についても課題を整理し、3機関で共有を図り、優先順位をつけて、できることから取り組んでいきたい。

安全で健康的なその人らしい生活を送っていただくために、改めて今後の共同生活援助の目的の確認と、今後の移転を含めた中長期的な事業展開計画を継続して検討する必要がある。

<重点取り組み事項>

1. モニタリングを継続し、本人の状態やニーズに適切な支援を考え、地域の社会資源や家族、関係機関と連携しながら安定した生活ができるように支援する。
2. 地域で行われる環境美化活動やカラオケ大会などのイベントに参加し、地域の一員としての帰属意識を感じながら地域生活を送ることができるよう支援する。
3. 年2回の防災訓練や市の総合防災訓練に参加することで、非常災害時の初動体制と備えを確認し、地域住民からの援助体制を構築する。また防犯対策についても検討する。
4. 入居者の障がい特性を正確に理解し、日ごろの生活支援に生かせるよう、スタッフの資質向上に努める。

平成29年度 サンハイツ事業計画（案）

月	提供するサービス内容	その他
（又は毎月）	利用者と一緒に調理、洗濯及び掃除などの家事、健康管理、金銭管理、相談及び助言、余暇活動の支援、その他日常生活上の支援 家族・関係機関との連絡調整 メンバーミーティング	町内行事などへの参加 共同住宅高齢者との交流 ケア会議の開催 スタッフミーティング
5		防災訓練
6	健康診断（市健診）	町内環境美化活動
7	健康・栄養指導	法人職員研修
8		
9		バタバタまつり 市総合防災訓練
10	日帰りレク	寺町地区運動会
11	インフルエンザ予防接種 感染症対策についての勉強会	寺町地区カラオケ大会 防災訓練 感染症初動対応の確認（スタッフ）
12	クリスマス忘年会	
1	新年会	
3		法人職員研修

平成29年度障害者生活支援川室優つくし基金事業方針（案）

障害者生活支援川室優つくし基金（以下、つくし基金）は、平成12年からスタートし、平成28年度までに66件の利用がある。平成29年度も地域で生活する障がい者の緊急時出費に役立ててもらうとともに、保証人に確認するなど返済困難リスクにも対応し、つくし基金の有効活用を図る。

また、つくし基金の原資は法人理事長の保健文化賞受賞時の賞金である。厳しい法人経営の資金や、ひまわりを活用した就労支援への繰り入れなど、有効に活用できるよう引き続き検討したい。